

# テーマ「みんなの想いが届くまち」

## 1. テーマ選定の理由

住民参加によるまちづくりが盛んになり、各地で多くの試みがなされている今日において、その効果がどれだけ現れているのか大変興味のあることである。住民参加を促進させていく上で、特に重要なのは住民の興味をいかに引き付けるかにあり、そのためには情報の共有化は不可欠である。

広報誌やポスターといった従来の広報活動の他に、最近ではホームページに情報を公開し、BSS（掲示板）や電子メール等の活用により、以前に比べ行政に直接意見が言えるようになってきていることは評価できることだろう。

しかしながら、実際に自治体に設けられているいくつかのホームページを見ると、更新がほとんどされていないものや、掲示板への書き込みがあまりなされていないものなど、まだまだ住民と行政の間には距離があるのではないだろうか。

その原因について考えてみると、以下のようなものが考えられる。

インターネットの普及率が低く、利用できない人が多い。

書き込みに対する対応がまったくなされないため、書いても無駄であると感じる。

意見募集の内容が専門的すぎて、気軽に参加できない。

そもそも行政に対してまったく興味がない。

で述べた原因は、インターネットの普及と同時になくなっていくことが想定されるが、その他の原因については改善し、より活発な意見をまちづくりに反映させることが、今後のまちづくりには不可欠となる。

そこで従来の情報公開 住民参加促進という直接的な考え方を改め、より多くの人が、自分の考えをまとめ、提案しやすい方法を考案し、まちづくりに参加する層を全体的に拡大させていく努力が必要になる。

このような現状を踏まえ、より多くの人がまちづくりに関心を持ち、自分の意見を言えるためのツールとして「アイデア BOX」の開発を提案する。

## 2. 提案内容

「アイデア BOX」とは、住民参加を促進させるツールとして、「気軽さ」と「わかりやすさ」を備え、より多くの住民がまちづくりに関心を持ち、意見をまちづくりに反映させることを可能にするアイテムである。

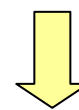
その利用構成を図 - 1 に、手順を下記に示す。

行政は住民の意見を反映させるプロジェクトに対し、アイデア BOX を作成し、対象者を募集する。

課題の提出  
・アイデア  
・調査  
・アンケート



アイデア BOX の提供  
・調査資料  
・問題点  
・アンケート等



住民(各種団体、グループ、学校)

募集に際し、行政は説明会を実施し、アイデア BOX の主旨や使い方の説明を行う。  
(説明は一度だけでなく、窓口を設け随時対応する。)

興味のある住民は BOX を取り寄せ、そこにある内容に従い、調査、議論をおこない、  
アイデア BOX に示された課題に対して結果を記録し、期限内に行政へ提出する。  
提出された結果を行政は集計、公開し、その結果どのように結論に至ったかを説明する。

その結果更なる調査、検討が必要な場合、へ戻り、繰り返す。

### 3. 参考例【河川改修事業における「アイデア BOX」構成例】

- (1) 対象河川の現況(イラスト)マップ
- (2) 対象河川の説明(歴史、施設配置、現時点における問題点等)
- (3) 改修計画案の説明(わかりやすい説明資料)
- (4) 課題シート

川調査シート(測定場所、日時、水のごり、生物、水温、におい、水量、ゴミ等を調査記録)

スケッチ(必要に応じて特定の場所のイメージ図を書いてもらう)

アンケート(計画に関するアンケートを参加者が記入)

まとめシート(調査した結果、問題点、提案)

### 4. 「アイデア BOX」のメリット

#### (1) 住民側のメリット

- 好きな時間に参加できる
- 好きな人同士で気軽に参加できる。
- 遊び感覚での参加ができる
- 自分のアイデアが行政に反映される。
- 自分のまちのことを知り、学べる。

#### (2) 行政側のメリット

- 調査、アンケートなどの結果を入手出来る。
- 多くの人の参加が見込めれば、行政に関する関心が高まる。
- 住民の意見をより行政に取り入れやすくなる。
- この手法が定着すれば、多くの事業計画に対して住民参加手法を取り入れられる。

### 5. おわりに

現在、ワークショップが住民参加手法の主流を占めているが、それを一歩進めて住民の自主性を重んじた参加手法があるのではないかと思い立ち「アイデア BOX」なるものを提案した。